

平成 23 年度 社会教育実習生の感想

・利用団体の活動を見学し、主催事業である「オープンハウス」に参加したことで、利用者が『安心』して体験活動に取り組むには『安全』に利用できる施設づくりに職員が取り組まなくてはならないことを学びました。

・実際に朝のつどいや夕べのつどいを行い、指導する立場になったとき、話を聞いてもらう工夫や注意点を学ぶことができ、自分達の意識がまだ甘いことを痛感しました。

・一週間と短い実習期間であったが、社会教育、青少年教育のことを知る以外にも普段の生活ではできないようなことも体験できたので、この実習を糧に今後の生活に役立てていきたいと思いました。

・今回の実習は一週間というには濃すぎる毎日であり、日常では得られない発見、知識を本当にたくさんいただいた。キーワードとなることは「人との出会い」である。実習で出会った人々からの影響は強大であり、考え方や価値観、そして世界観までも変えるものでありました。

・実習ではこれほど信頼し、尊敬できる職員の方々に出会ったのは初めてでした。職員の方は皆、どうしたら利用者の方が楽しく、安全に活動できるかを第一に考えていた。それは実習生に対しても同じことで、私たちからの質問に丁寧に細かく応えてくださり、その熱心さや気遣いにとても感動しました。

・人の絆の重要性。そして、人への気配りの大切さ。これはまさに私たちがこの実習で最も学んだことである。この体験を日常生活でどう活かし、教わったことを他の学生達に伝え広げていくために何をしたらいいのかということを考えていました。

・実習で学んだことは、子どもたちへの指導・助言の仕方である。指導＝教える人・管理する人ではなく、時には黙って見守り、考えさせることも大切な指導の一環であるということです。さらには、子どもたちと仲良くなるばかりでなくメリハリをつけ、常に一歩先の行動を予測した行動をとることなど、子どもたちのモデルになるように心掛けることが大切であると感じました。

・実習の始まる前は不安な気持ちでいっぱいでしたが、始まると本当に優しく接していただき、俄然やる気ができました。実習を通して、私は今よりももっともっと勉強して多くの体験をし、自分自身の視野を広げ、成長していきたいという気持ちになりました。